

# 1. 家庭学習の重要性 = 家庭は第二の学校

- 1) 幼児期から補習校に通い、高校卒業まで継続できる生徒がいる一方で、学年相応の日本語を習得できず、補習校の授業についていけなくなる児童生徒がいます。
- 2) その違いは、家庭で自分から進んで補習校の勉強（宿題や読書）をする習慣がついているかどうかです。
- 3) この一年で、自主的に家庭で学習する習慣を身に付けさせることを、保護者の皆様の目標としてください。

## 2. 家庭での生活目標と学習目標（1）

千里の道も一歩から：家庭で自主的に学習する習慣を身に付けることを、目標に

- 一学期 → 親が一日の予定と、一週間の学習予定を立てる。  
親が横について、子どもの家庭学習をサポート・指導する。  
親は、子どもの理解の度合いと、習得に必要な時間を見極める。
- 二学期 → 親と子が一緒に、一日の予定と、一週間の学習予定を立てる。  
できるだけ親が横についているところで、子どもは家庭学習を行う。  
一日の生活の中で、補習校の学習をする時間を確立させる。
- 三学期 → 子どもが一週間の学習予定を立て、学習の進捗状況を確認する。
- \* 親は宿題の丸つけ、テストの見直しを行い、できていないところを指導する。

## 2. 家庭での生活目標と学習目標 (2)

こくご

「話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと」

\* 文字の習得について

1学期： 夏休み前までに、ひらがなの読み書きを習得する。  
字の形や、とめ・はね・はらいに気をつけて、ていねいに字を書く。

夏休み： カタカナを覚える。

2学期： カタカナテスト。漢字約50字を習得する。

3学期： 1年生の終わりまでに、漢字80文字を習得する。

## 2. 家庭での生活目標と学習目標 (4)

エビングハウスの忘却曲線



できるだけ早く復習すると、  
記憶が鮮明のため、  
忘れていても短時間で  
よみがえります。

エビングハウスの忘却曲線と復習の関係





いちねんせい がくしゅう よていひょう

やりかた

- ① おうちのひとと いっしょに よていを たてます。よていの ところに ○か かいすうをかきます。  
ならいごと などが あるひは かいすうを へらしたり、○を つけなくても よいです。
- ② よていどおりに できたら、「できた」のしかくに すきな いろをぬったり、○をかきます。



|                                |                  | ひにち | /   | /    | /    | /   | /    | /    |      |
|--------------------------------|------------------|-----|-----|------|------|-----|------|------|------|
|                                |                  |     | どよう | にちよう | げつよう | かよう | すいよう | もくよう | きんよう |
| こくご<br>きょうかしよ<br>おんどく          | よむ よてい<br>の かいすう |     |     |      |      |     |      |      |      |
|                                | できた              |     |     |      |      |     |      |      |      |
| ひらがなの<br>れんしゅう                 | よてい○             |     |     |      |      |     |      |      |      |
|                                | できた              |     |     |      |      |     |      |      |      |
| ほんよみ                           | よてい○             |     |     |      |      |     |      |      |      |
|                                | できた              |     |     |      |      |     |      |      |      |
| おうちのひとから<br>ひとこと<br>または<br>しるし |                  |     |     |      |      |     |      |      |      |

一学期は上記様式を毎週提出し、二学期以降は「学習習慣がついた」と親が判断した時点で提出は任意としています。ひらがなの練習という欄は、2学期以降カタカナ、漢字と変わり、記載文字も適宜既習した漢字に置き換えています。

### 3. 宿題の内容と、保護者の学習指導 (④ 文字の学習)

来週から、ひらがなテストが始まります。  
 「とめ」「はらい」が、評価観点となります。

|      |    |    |    |    |          |    |    |
|------|----|----|----|----|----------|----|----|
| 50   | 51 | 52 | 53 | 54 | 55       | 56 | 57 |
| へ    | り  | く  | つ  | し  | い        | こ  | に  |
| 58   | 59 | 60 | 61 | 62 | 63       | 64 | 65 |
| た    | け  | も  | う  | て  | と        | ち  | ろ  |
| 66   | 67 | 68 | 69 | 70 | 71       | 72 | 73 |
| る    | ら  | か  | の  | ひ  | せ        | さ  | き  |
| 74   | 75 | 76 | 77 | 78 | 79       | 80 | 81 |
| よ    | ま  | は  | ほ  | わ  | れ        | ね  | め  |
| 82   | 83 | 84 | 85 | 86 | 87       | 88 | 89 |
| ぬ    | す  | み  | や  | そ  | な        | お  | ゆ  |
| 90   | 91 | 92 | 93 | 94 | 95       |    |    |
| を    | ふ  | え  | ん  | あ  | む        |    |    |
| [備考] |    |    |    |    | 学習日      |    |    |
|      |    |    |    |    | 年 月 日( ) |    |    |

ひらがなテストの順番  
 (ヨコミネ式)

# ひらがなの練習と ご家庭での指導

保護者が最初の一マスに  
お手本を書きます。  
子どもは、親のお手本を  
見ながら一日に二文字ずつ  
ていねいに書きます。



十分程度の短時間で終われる量を、  
できるだけ毎日練習させてください。  
昨日よりも上手に書けていたら、花まるを  
つけてあげましょう。

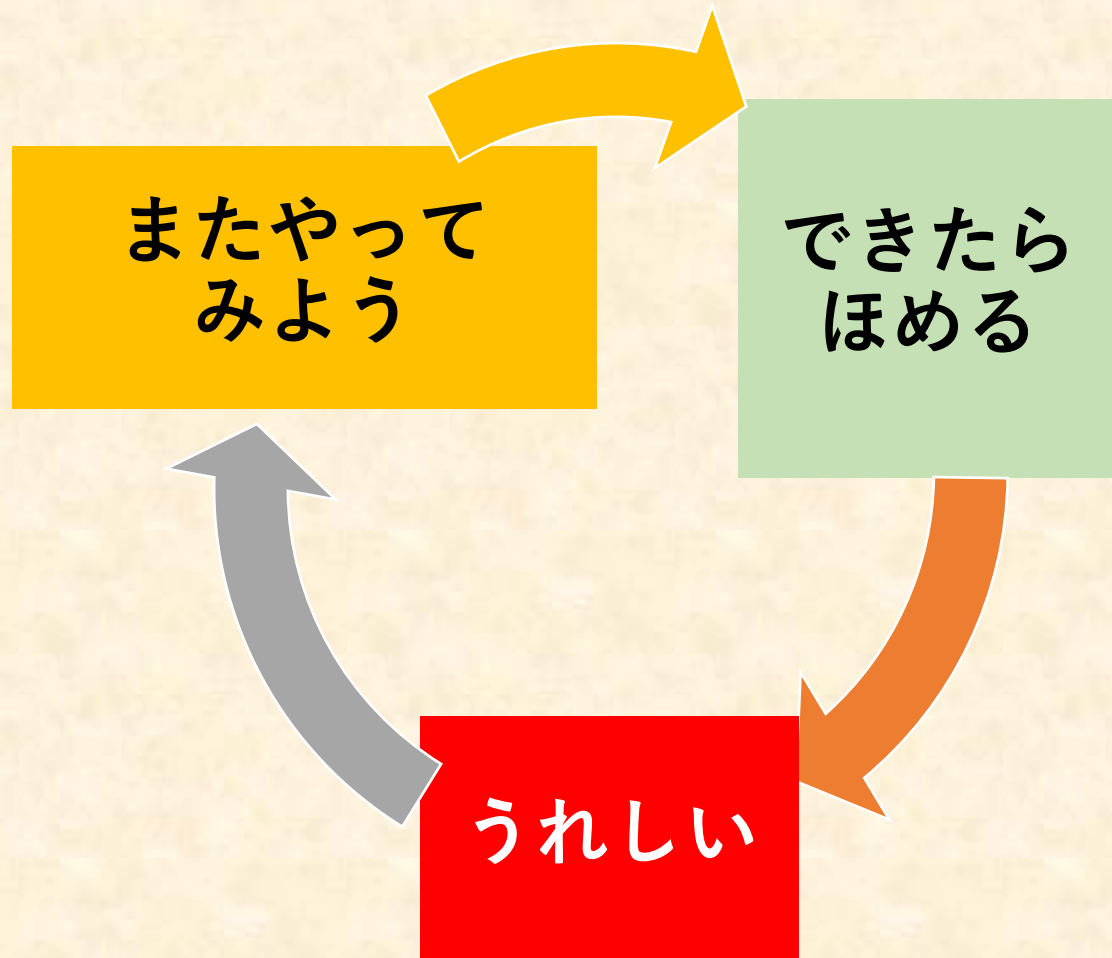
週のおわりには、それまでに習ったひらがな  
を使った言葉を親が出して、ノートに書かせる  
小テストをしてあげてください。

★国語のノートは2学期に2冊目が  
配布されますので、どんどん使用してください。



## 4. 家庭での学習指導で大切なこと (2)

「勉強がおもしろい!」と思えるように



保護者自身が  
『子どもと日本語で  
対話できる  
楽しく充実した時間』  
と思えるように  
工夫しましょう。

ゲーム、クイズ、お話作り  
インターネットの活用、  
外への冒険など

## 4. 家庭での学習指導で大切なこと (3)

### 1. いつ?

- 毎日の学習時間を決める。長時間続けて学習させない。短時間で切り上げられる学習内容で予定を立てる。20分から30分勉強したら、5分の休み時間を取る。(学習の最初と最後は印象に残り、よく頭に入る)

### 2. どこで?

- 勉強以外のことに気が散らない環境を作る

### 3. 何を?

- 最初にやる学習を決める。文字の練習や音読など、難しく考えなくてもできるもの。書写体操を取り入れ、頭の準備運動をさせる。



## 4. 家庭での学習指導で大切なこと (4)

### 1. 子どもへの言葉かけ

できないことを非難するような言葉を、決して言ってはいけません。

「どうしてこんなことも わからないの。」「なぜできないの。」

「○○ちゃんはよくできるのに。」「これをしないと、○○できない。」

子どもの自尊心を傷つけ、学習意欲を失わせるだけです。



### 2. 時間と気持ちに余裕をもって

遊びに夢中で学習に取り掛からない時は、「あと5分。」

「あと1分」と予告して、やめるまでの「気持ちの準備」をさせましょう。

親が余裕なくストレスを感じていては、子どもも楽しく学習できません。

### 3. 子どもとたくさん日本語で会話する

まず親が日本語でたくさんお話してあげることが大切です。

[「子供が話をしてくれない」原因は親の側にも 親子のパイプを目詰まりさせないコツ：朝日新聞GLOBE + \(asahi.com\)](#)

【保護者の方へ】 漢字の学習について

新しい漢字が増えるとともに、忘れる漢字も多くなっていきます。

日本の小学校の先生が実践している、下記の漢字学習法をぜひご家庭でもやってみましょう。

- ① 親が、漢字ドリルの2～3ページを見ながら、口頭で、次のように問題を出します。
- ② 漢字を一文字ずつ順番に言って、国語のノートに書かせます。その時、新しい漢字から問題を出します。  
(腕を伸ばして人差し指で、宙に書く「空書き」でも良いです。)
- ③ 忘れた漢字の答えを教えます。子どもは1回書きます。思い出させるのが目的です。
- ④ ノートに丸をつけて「完璧に覚えた」と親が思った漢字は、次回から除いていきます。

これをできるだけ毎日繰り返します。(慣れると子どもも覚えて時間はかかりません。)

\*\*\*\* 今の親の丁寧な指導と、ご家庭での漢字学習の仕方が、これから学年が上がり一人で学習するときの土台となります。小一で日本から渡米し、高等部に入って漢字検定準2級を合格した子がいます。現地校が忙しくなっても、毎日ほんの短時間でも漢字を見たり書いたりしていた学習の成果でした。\*\*\*\*